

特別支援教育のこれからの担い手を育てるための授業の工夫

——特別支援学校における体験学習の実践——

河合 千丈*

キーワード：特別支援学校・体験学習・児童生徒との関わり・個に応じた指導

はじめに

本学は教職課程において特別支援学校教諭免許状を取得するために必要な「特別支援教育に関する科目」を開設している。筆者はこのうち「特別支援教育領域に関する科目」（知的障害者の心理、肢体不自由者教育論）を令和2年度から担当してきている。この科目においては集中講義を中心に各障害についての専門的な知識や指導技術の向上につながることを目標に指導している。障害児者に対する理解は机上の知識だけでは十分身に付けることができない、そこで特別支援学校において実際の授業や児童生徒の学校生活の様子を観ることや直接児童生徒に関わることを通して、障害のある児童生徒の障害特性や教師の児童生徒への関わり方等について、より確かな学びができると考え指導をしてきた。その内容や効果について以下にまとめる。

1 体験学習の内容

(1) 体験学習受入れ学校

特別支援学校において多くを占める知的障害教育校、肢体不自由教育校での体験を中心に以下の学校に依頼をした。どの学校も「今後の特別支援学校を担う学生のためならば」ということで、大変快く引き受けてもらった。

年度	知的障害教育校	参加学生数	肢体不自由教育校	参加学生数
令和2年度	豊川特別支援学校	2名	豊橋特別支援学校	2名
令和3年度	豊川特別支援学校 豊川特別支援学校本宮校舎	6名	豊橋特別支援学校	5名

* かわい せんじょう 教職支援センター

令和4年度	豊川特別支援学校 豊川特別支援学校本宮校舎	5名	岡崎特別支援学校 豊橋特別支援学校	5名
-------	--------------------------	----	----------------------	----

令和2年度からコロナ感染症の影響で、実施の可否については受入れ学校の判断に従うこととした。担当者と実施期日、実施内容等については十分連絡を取り、無理のない範囲で実施するようにした。

(2) 事前学習

学校における体験をより充実したものにするため、事前の学習として以下の内容を授業に取り入れた。

①体験する学校の事前調査

- ・学校要覧やインターネットを利用し、調べまとめる。
- ・調査したことを発表し合い特別支援学校の情報を共有する。

②体験学習における目標設定

- ・体験する内容を理解した上で自身がどのようなことに意識して参加するのかを目標（表1）として挙げ、上記の学校調査と同様に発表し合い共有する。

表1 学生の体験学習における目標（レポートから一部を抜粋）

<p>(児童生徒の視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知的障害のある生徒は、授業で習ったような特徴があるのか」「同じ障害でも個人差があるのか、またどのように違うのか」など生徒を中心に観察する。 ・知的障害児や自閉症児の実態について知る。 ・教科教育はどの程度理解することが出来るのか知る。 <p>(教師の視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が学校にいる間教員はどのような部分に気をつけて生徒に関わっているのか。 ・「教員がどのように生徒に接しているか」「生徒に伝わりやすい言葉をえらぶなど、工夫があるか」など教員を中心に観察する。 ・軽度知的障害や自閉症の児童生徒との関わりの中でどのような部分に気をつけることが必要なのか。 ・先生の授業作りはどのような点を工夫しているのか。教材の工夫を知る。 <p>(体験の姿勢として)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から生徒に話しかける。 ・自分から生徒を補助する。

③体験での心構え確認

体験に参加するに当たって次のような内容（表2）を事前学習において示し、当日参加

するように指導した。特にコロナ感染症に対しては感染すると重症化しやすい児童生徒が通う学校であることから、感染症対策に対する高い意識をもって参加できるよう、2週間前から体温や健康状態を細かく記録するための健康チェック表を付けることとした。

表2 体験学習における留意事項や準備物（体験学習ワークブックから一部抜粋）

◎留意事項

- ・学生らしい服装や態度で参加する（愛知学院大学の看板を背負っている）。
- ・謙虚に一生懸命学ぼうとする気持ちは態度や行動として現れる。
- ・明るく、元気よく参加する。特に児童生徒に関わる場合は笑顔で対応する（マスクで難しいが）。
- ・当日の行動については日程に沿って、学校の指示に従う。
- ・児童生徒への対応で困った場合は周りの先生に尋ねる。
- ・見学や参観にあたっては自分の学習目標に沿って、よく観察をする。
- ・体験学習で児童生徒について知り得た事は口外してはならない（守秘義務）。
- ・自身の健康には十分留意し、感染症対策は万全にする（健康チェックをきちんと実施する）。

◎持ち物

- ・ワークブック
- ・筆記用具（ポケットに入るメモやペンなどもあるとよい）
- ・着替え（華美でない運動服、長ズボンが好ましい）、タオルなど
- ・上靴（校内では運動靴）と外靴
- ・マスク（可能であれば不織布製）
- ・消毒用アルコール
- ・健康チェック表（当日朝、河合千丈に提出する）
- ・名札（大学名、氏名）（掛け方は説明する）
- ・昼食（お茶等も含む）（暑いので水分は多めに用意する）
- ・その他各自必要なもの（各自で暑さ、感染症対策を）

(3) 体験学習の内容

【知的障害教育校での取組】

知的障害教育校ではできる限り、児童生徒と関わる場面を設定していただき、関わりの中から児童生徒の様子を知ったり、関わり方を学んだりできるようにした。

① 授業参観及び校内参観

- ・授業中の児童生徒の様子や教師の様子を観察する。
- ・特別支援学校ならではの施設、教室環境等の見学をする。

②授業への参加 (図1)

- ・小中高等部それぞれの授業に参加する。
- ・担当者の指示を仰ぎ児童生徒の指導支援の手助けをする。



図1 工業の授業への参加

③教員による講義 (図2)

- ・学校紹介、知的障害教育について

④作業体験

- ・高等部生徒が作業学習や工業の時間に行っている作業を実際に体験する。
- ・縫製作業、紙すき用のパルプちぎり、部品の組み付け、箱包みなど

⑤部活動参加(豊川特別支援学校本宮校舎のみ)

- ・生徒が授業後に行っている部活動に参加し、生徒と共に活動をする。
- ・陸上部、バスケットボール部、フライングディスク部



図2 教員による自立活動に関する講義

【肢体不自由教育校での取組】

肢体不自由教育校では学校からの申し出で、コロナ感染対策のため、直接児童生徒と関わることは避け、授業参観を中心とした。関わるのが難しい分、学校側の計らいで様々な講義や体験をさせていただくことができた。

①授業参観及び校内参観

- ・肢体不自由教育校独特の施設設備であるエレベータースロープ、トイレなどの見学

②講義

- ・学校の特色、肢体不自由教育について
- ・自立活動について

③体験

- ・自立活動の授業体験
スヌーズレン(光遊び)、スイッチなどの教材に触れる
- ・摂食指導
一人一人の食機能に合わせて調整された形態食(初期・中期・後期)の試食(図3)



図3 形態食の試食

【その他の取組】

①本学卒業生との懇談

体験学習を実施した学校に、本学出身で教員採用試験に合格した初任者がいたため、先輩教員から学ぶことを目的に、各校で参加学生との懇談の時間を作っていただくことができた。

②態度面等の学びとして

教育現場における教師としての意識を高めるため、また社会人としての良識を知るため以下のようなことを実践した。

- ・代表者による事前の電話での依頼挨拶
- ・当日の朝と帰りに校長室にて挨拶
- ・代表者による職員朝礼での挨拶
- ・講義等の前後での起立挨拶
- ・事後に各校への礼状を各自で作成送付

(4) 事後学習

体験学習を通して学んだことを以下のような方法で振り返った。

①体験で学習したことをレポートにまとめる。

- ・体験に対する個々の目標の達成状況を整理する。
- ・感想等をまとめる。

②体験発表会

- ・体験でまとめたレポートを元にスライドにまとめる。(図4)
- ・一人につき15分の体験発表を行う。
- ・質問や感想などを発表し体験の様子を共有する。



図4 体験発表会のスライド資料

3 参加学生の感想（まとめのレポートから一部抜粋）

初めての授業見学で最初は緊張したけれど、児童生徒とコミュニケーションを取っていくうちに楽しくなってきました。特別支援学校に通っている児童生徒は素直な子が多く、いい子たちばかりでした。体験学習の最後、体育を一緒に行った生徒から「ありがとう。楽しかったよ。」と声を掛けられ「やっぱり教師って良い職業だな。」と思いました。

様々な状況の生徒に対して、多くの教師がいて、一人一人に対応することができるようにしていた。私はまだ障害のある人に関わることに慣れていないため、これから関わる機会を増やし、一人一人に合った支援をして生徒が将来自立して生活することができるようにサポートしていきたい。

先生方はとても明るく私たちを迎えてくださり、生徒に対しても常に笑顔で明るく接している姿を目にした。生徒たちは先生方の姿を見ているため、生徒も自然と明るい性格になっているのだろうと感じた。

けいれん発作時に教師は生徒の元へ駆け寄り、発作の時間を計ったり、体を支えたりなど焦らずに行動していた。また、ほかの教師に午前中の様子を聞いたりなどしっかりと記録していた。

教師の支援の中で共通して行っていたことは、簡単な言葉に言い直して分かりやすく伝えることはどの生徒にも共通して行っていた。そして、生徒一人一人に合わせて違った支援をしている姿を実際に見ることができた。

生徒と実際に関わることで、指導方法やしゃべり方によっては生徒を不安や緊張させることがあるため、知識だけを蓄えるのではなく、生徒たちと関わる機会をもっと増やしていかなくてはならないと思った。

教師の臨機応変な対応が教育現場でとても重要になっていくことが分かった。

児童生徒が心地よい学校生活を送ることができるように支援することが特別支援学校の教員の役割だと感じた。重度な子への指導から、児童生徒が自立できるようにするための支援を学ぶことができた。

参加学生は上記の感想以外にも多くの感想を述べていた。いずれの学生も障害のある児童生徒と関わることは初めてのことであった。自分が想像していた以上に児童生徒の素朴さや明るさに触れることができたようである。また障害があっても頑張る姿や諦めずに様々なことに取り組む姿勢に感動をし、障害のある児童生徒の生きる力を感じ取ることが

できた。

また、授業の見学や参加から、教師の動きや対応について次のような感想が多くあった。

- ・一人一人に応じて丁寧に対応している。
- ・児童生徒に対応するときの表情や声がとても明るい。
- ・いろいろな場面で児童生徒をよく褒めていた。

4 まとめ及び考察

特別支援学校における体験学習を通して、障害のある児童生徒の姿に直接関わることができ、参加した学生は、自身の心を動かされ、わずかな時間ではあったが大変貴重な体験ができたのではないかと考える。未知の分野であった障害児者との触れ合いや関わりから、これまでもっていた偏見の様な捉え方を払拭することができ、障害のある児童生徒の見方を変えることができた。そして、障害に負けることなく、ひたむきに生きる姿を見たり、児童生徒から元気よく挨拶をされたりしたことから、自分たちのこれまでの生き方や現在の生活について、今のままではいけないと考えるようになり、自分を変えるきっかけとなる大きな刺激を受けたようである。

児童生徒との関わりだけでなく、特別支援学校にて一日を過ごすことで、自分が特別支援学校に勤務した時のことを想定して学ぶことができた。多くの教師が児童生徒に対して明るく、元気よく接する姿や常に児童生徒を称賛しながら指導を進めている姿、個々の児童生徒一人一人に応じ、丁寧に指導・支援をしている姿を直接見ることができ、特別支援教育を担当する教員としてのスキルや大事な姿勢を学ぶことができたようである。これらのことは机上では学ぶことができない、大変重要な学びであると考えられる。また、実践をしてきた3年間はコロナ禍であり、各学校では非常にきめ細やかな感染症対策がなされていた。このように学校教育の中で児童生徒の安全・安心を確保するための方策についても目の当たりにすることができ、今後、自身が現場に就いたとき活かされる学びができたようである。

ここ3年間は本学ではコロナ禍で介護等体験をすることができなかった。参加学生は4年次に特別支援学校で教育実習を行う。この実習に向けても、事前に特別支援学校での体験ができ、心の準備をするためにも貴重な体験となった。

5 今後に向けて

今回の体験学習を実施したことによって、参加学生は机上の知識を中心とした学びだけでなく、教育現場において様々な体験から多くのことを学び取ることができた。教員を目指す学生の大学段階でのこのような学びは教員になったときに大いに役立つと考える。筆者自身も大学時代の障害のある子どもたちとの関わりが教職に就いてから大いに役立った経験をしている。今後も体験を核にした授業を構成し、単位修得のためだけの受け身の学びにならないように授業内容、授業方法についてはさらに研究をしていきたい。

また本科目では「主体的、対話的で深い学び」(アクティブラーニング)を強く意識した取組を行った。事前学習ー実践ー事後学習を一連の学びとしてとらえ、単なる体験だけで終わらないように意識したことが学生にとっては確かな学びになった。この方法についてもさらに工夫をし、より学生が前向きに取り組めるように工夫を加えていく。

おわりに

3年間の取組が大きな成果を上げることができたのは、受入れ先の特別支援学校の校長先生始め多くの先生方の絶大なるご理解やご協力があったからこそである。今後の特別支援学校の教諭を育成しようという学校側の大きな期待を学生自身も感じ取ることができた。親身になってご指導いただいた愛知県立豊川特別支援学校、愛知県立豊川特別支援学校本宮校舎、愛知県立岡崎特別支援学校、愛知県立豊橋特別支援学校の先生方に心から感謝申し上げる次第である。